



## 社内統計調査の結果報告

富士運輸の全営業所のドライバー社員380名に対し調査を行った。

## 3つの仮説

仮説1

仕事に対する考え方、満足度、取り組む姿勢、生活習慣や家族構成等から事故の有無を予測できるか！

仮説2

心理適性診断の結果から事故の有無を予測できるか！

仮説3

運転成績(デジタル記録計)から事故の有無を予測できるか！

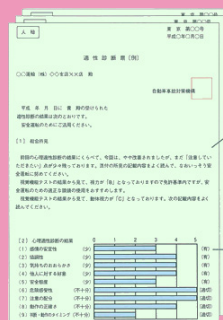
## アンケート調査



- ・仕事に対する考え方
- ・今の会社を選んだ理由
- ・働きがいの感じるもの
- ・会社に対する満足度
- ・毎日帰宅できるか
- ・自宅に帰れないストレス
- ・お酒を飲むか飲まない
- ・パチンコをするかしないか
- ・十分な睡眠の有無
- ・金融機関等の借入れの有無
- ・配偶者の有無
- ・家族構成
- ・趣味や読書について
- ・事故防止のための心構え

上記のような約50項目のアンケートを富士運輸の全営業所のドライバー社員380名に対し調査を行った。

## 運転適正検査のデータ



心理適性診断による事故の予測  
ドライバー社員に対して、定期的に自動車事故対策センターに委託し、適性診断を実施している

以下の9項目が適正診断の内容です  
「感情の安定性」  
「協調性」  
「安全態度」  
「危険感受性」  
「注意の配分」  
「動作の正確さ」  
「気持ちのおおらかさ」  
「他人に対する好意」  
「判断・動作のタイミング」



## デジタルタコグラフの成績



## 過去の事故データ



## 結論

アンケートとデータ分析の結果、3つの仮説の結果とは大きく違いがある事が判明した。必ずしも適正診断の総合得点が低い場合やデジタルタコグラフの総合得点が低い結果であっても事故との相関関係とは一致しなかった。最終的に全てのデータをSPSSで分析し、事故との相関関係がどうであったかの結論が出ました。

1. 運転適正検査の結果で下記の3つの点数が5である乗務員は事故を殆ど起していない。

★感情が安定している人 ★他人に対する好意がある人 ★協調性のある人

2. 私生活の行動について、パチンコに行く回数が多い人ほど過去に事故を起しているという結果であった。

3. 喫煙の関係ではヘビースモーカーの人は事故をする確立が3%と極めて低い結果であった。

4. 社員の平均年齢より高い人が事故を起していないという結果がでた。(社員平均年齢34歳)

5. デジタルタコグラフの高得点者でも事故を起さないとは限らないという結果であった。